



## 農業特集号

# 美しい農地を次世代に引き継ぐために

## 農業者・市民・市が協働し都市農業を守ろう

市では、農業者や市民と協働しながら、農業の振興と農地保全を目指しています。広報今号では、市の取り組みを紹介します。

固産業振興課

### 農業をもっと身近に～農業体験

#### ■農業体験農園

農業体験農園とは、農業者が自ら開設し、管理・運営を行う体験農園です。農業者が指導者となり、1年間に作る農産物を決め、入園者に種まきから収穫までを教えます。入園者は初心者でも安心して取り組み、新鮮でおいしい野菜を収穫することができます。農園は1区画約30平方メートルで、種や苗、農具などの用意は農業者が行います。市内では、4月1日現在、3園が開園しています。

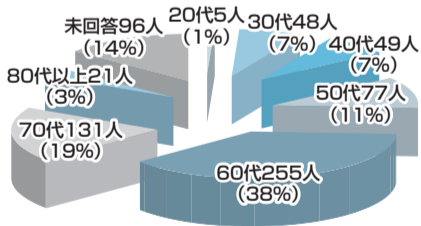


#### ■市民農園

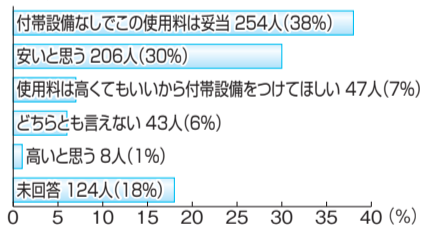
市民の方に農作業を通して土に親しむ機会を提供し、市内の農業への関心と理解を深めるため、また、農地を保全するために市民農園を開設しています。市民農園は1区画約20平方メートルで、4月1日現在、16園が開園しています。また、平成22年度に市民農園利用者を対象にアンケートを実施しました。この結果を踏まえ、使用期間や面積、料金などについて検討していきます。なお、市民農園利用者は、毎年広報ひの2月15日号で公募しています。



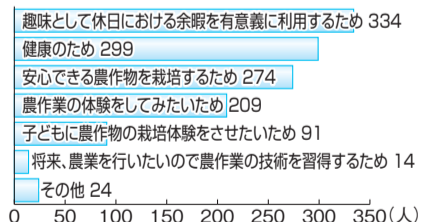
#### ●利用者の年齢～60歳以上が6割



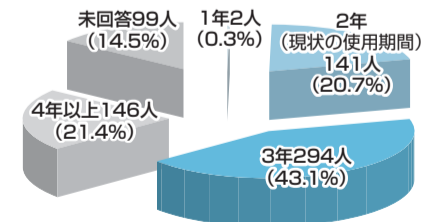
#### ●使用料について



#### ●応募動機(複数回答可)



#### ●使用期間～約半数の方が3年以上を希望



### 農業を助ける人材を支援します

農業者の高齢化に伴う人手不足への支援として、平成16年度から援農市民養成講座「農の学校」を開校しています。受講生は、1～12月の1年間を通じて、農業の基礎を習得します。修了後は、「日野人・援農の会」にボランティア登録を行い、市内農家で援農ボランティアとして活躍しています。平成22年度は、35の農家で総勢64人が活動しました。



### 農業イベント

#### ■日野市産業まつり農業展(11月)

毎年11月中旬に、市内の農業者が丹精を込めて栽培した秋野菜や果樹、花卉を品評する共進会を開催しています。共進会の後には、展示された農産物の即売、日野産農産物を使用した宝船(昨年は野菜のデコトラック)の展示や、使用した農産物の無料配布などが行われます。



#### ■都市農業シンポジウム(1月)

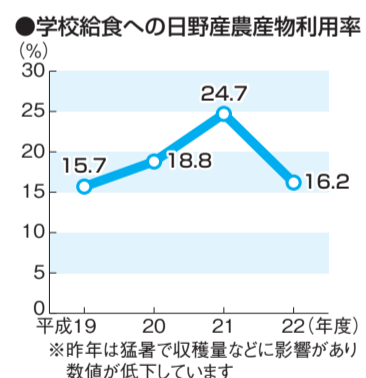
毎年1月下旬に、さまざまなテーマで市民と共に農業を考えていくイベントです。メインテーマに基づいた基調講演や、市内農業者を含めたパネリストによるパネルディスカッションの2部構成で行われます。



### 日野産農産物を子どもたちに～学校給食への取り組み

市内農業者と学校栄養士が協力して、学校給食への日野産農産物の活用を推進しています。

市では、食育推進計画で平成23年度日野産農産物利用率25%達成を目標とし、契約栽培品目への補助金交付や、市内全域の受注納品調整を行うコーディネーター制度を導入するなどの取り組みを行っています。



### 日野市の農業の現状

市の農家戸数総数は、年々減少傾向にあり(下表参照)、年齢階層別農業就業人口は、60歳台が2割、70歳台が3割、平均年齢は65.9歳と高齢化が進んでいます。

このような現状に対し、市ではさまざまな事業や取り組みを通じ、日野の農業を支援し、農地を守っています。

#### ●専業・兼業別農家戸数(単位:戸) 資料:2010年世界農林業センサス

種別	年度			
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
専業	22	31	34	49
兼業	1種	27	39	24
	2種	366	321	313
合計	415	391	371	348

※平成22年11月発表。速報値のため、確定値は多少値が前後する可能性があります

#### ▶用語説明

- ・兼業農家…世帯員の中に兼業従事者が1人以上いる農家
- ・第1種兼業農家…農業所得を主とする兼業農家
- ・第2種兼業農家…農業所得を従とする兼業農家